

臨床心理部門の業務としては、入院および外来治療をされる患者様に臨床心理学の専門知識と方法を用いながら、ニーズに応じてアセスメントや心理面談、地域援助を行っております。

アセスメントとは、心理検査などを通して患者様の知的発達の特徴や認知（考え方・感じ方）の特徴などを捉えていくものです。心理検査には、発達検査、知能検査、パーソナリティ検査などがあり、種々の検査を組み合わせて実施する場合があります。また、検査結果のみではなく、患者様自身のご様子や周囲との関わり方のご様子も含めてアセスメントしています。

心理面談では、主に症状の軽減や社会適応とともに、情緒の安定と内的成長をはかる援助をいたします。心理面談は、医師が必要と判断した患者様に対して実施しており、内容や進め方については、患者様のご要望や状態を考慮しながら調整しています。たとえば、対話を通して患者様の不安やストレスなどについて援助を行う場合や、発達の支援を目的として面談を行う場合があります。また、子どもさんへの接し方についてご家族と相談させていただくこともあります。外来診療では、患者様のご家族向けにペアレント・トレーニング（ご家族にお子さんへの家庭療育の方法について学んでいただくもの）も実施しています。

そして、地域援助においては、ご家族の希望により、学校関係者や種々の専門機関との連絡を適宜行い、患者様がお住まいの地域で周囲の支援を適切に得ながら生活していけるように、患者様の特徴や症状、患者様へのより良い関わり方についてご説明させていただいています。患者様が日常生活を過ごされたり、関わったりすることの多い地域の学校関係者や専門機関の方々が共通の認識をもち、連携をはかることで最大限の援助ができると考えています。